

毎日寒い日が続いていますが、子どもたちは元気に幼稚園で遊んでいます。園舎内は毎日子どもたちの笑い声が響いています！2月は楽しいことがたくさんありました。子どもたちの様子をご紹介します。

## 豆まきをして、おなかの中の悪い鬼をやっつけたよ！

今年は、蔓延防止等重点措置の発出により、みんなで集まる豆まき会はできませんでした。規模縮小で鬼が来ないことを知った園児の寂しげな顔を見て、急遽、小学校の先生が鬼となって登場してくださいました。各クラスで日本の伝統行事に触れ、豆まきを楽しみました。



鬼は～そと！  
福は～うち！



## 小学校の先生に染め遊びを教えてもらったよ。

年長児と年中児は、小学校の中尾先生に染料を使った染め遊びを教えていただきました。絵の具とは違った、美しい発色に、染めた障子紙を開くたびに大きな歓声が上がりました。



好きな色を選ぶよ。





## じゃがいもの種芋を植えたよ！

ジョギング体操

畑の先生金子さんと一緒に、種芋を植えました。  
ジョギング体操で体を温めた後、ひとつひとつの種芋の切り口に灰を付け、畝へと植えていきました。春になって芽が出てくるのが、今から待ち遠しい子どもたちです。



切り口に灰をつけます。

### うらやまからのつぶやき（園長のつれづれなるままに No.10）

「共感性」というキーワードから、幼児教育を考える

1月末か2月当初の日曜日の早朝、『テレビ寺子屋』という子育てに関するお話を聞ける番組があり、弁護士の住田裕子(すみたゆうこ)氏が、タイトルは忘れてしまいましたが、「共感性」にまつわる話題で、話されていました。幼稚園という教育現場に所属する私は、思わず、聞き入ってしまいました。

先ず、世界の調査（対象年齢・調査時期不明）から。「自己肯定感」を示す数値が、韓国 73.5%、米国 96%、英国 80.1%、スウェーデン 74.1%に対して、日本は 45.1%。これが、「共感性」にも、通じる。犯罪者には、この「自己肯定感」の低い人が多いとのこと。

「共感性」とは、人の喜びや痛みを、思いやり相手の立場で考えること。確かに、自己肯定感が低ければ、相手の立場に立って物事を考えることなど、不可能であるに違いない。

これは、EQ（心の知能指数）とも言える。頑張る力・熱意・意欲・思考力等、目に見えないものである。対立するものに、IQ（知能指数）がある。これは、勉強であったり、スポーツであったり、目に見えるものであり、数字で表せるもの。

今、コミュニケーション能力の必要性が謳われ、ICT化の時代、SNSなどの情報伝達アプリを使いこなす能力も重要視されているが、これはどうしても一方通行。対面での情報交換の場、すなわち相互交流できる場が、必要である。

**常日頃、「幼児教育は、幼児の主体的な活動を促すため、幼児期にふさわしい、遊びを通して、考える癖をつける時期（小学校教育以降の基礎形成期）」と話題にしているのと、同意義であると解釈しました。年度末に入り、各学年は、次の学年への意識をした活動をし始めております。**

**ICT化など流行を意識しながらも、本質である「幼稚園教育」を突き進んでいきます。**